

檄

第 49 回衆議院選挙の投票日（10 月 31 日）までいよいよ 1 週間をきった。

10 月 14 日の解散から投開票日まで 17 日間と戦後最短であり、また、任期満了を超えての衆議院選挙は現行憲法のもとでは初めてという異例の闘いとなっている。コロナ禍で従来型の活動に制約がかかる中、創意工夫を凝らしながら日々活動を進めてきた全組織に心より敬意を表する。

今次衆議院選挙は、コロナ禍における国民の暮らしの不安や格差を解消し、その後の持続可能な日本社会を展望するうえでも極めて重要な闘いとなる。新型コロナウイルスの感染拡大が戦後最大級の危機とも言われる中、自公政権の対応は後手に回ったと言わざるを得ず、多くの生活者・事業者を混乱に陥れた。それにもかかわらず、与党は 6 月 16 日に第 204 通常国会を閉じて以降、感染拡大が続く状況にあっても国会を開かず、自民党総裁選を経てようやく 10 月 4 日に開かれた第 205 臨時国会でも本格的な論戦は行われなかった。国会軽視の姿勢は厳しく問われなければならない。

政治に対する不信感やあきらめ感をこれ以上増大させないためにも、緊張感のある政治と健全な民主主義を取り戻さなければならない。

サービス連合が政治に求めているのは、働く者や生活者の立場を踏まえた、政治・政策の実現である。

働く者・生活者の立場に立つ政治勢力を拡大し、政策実現への道筋を確かなものにしなければならない。

闘いは、いよいよ大詰めを迎えた。10 月 31 日の投開票日に向けて、組合員、その家族また知人への投票行動（期日前投票など）の呼びかけなど、サービス連合全体一丸となって選挙戦を闘い抜いていく。

推薦候補者全員の勝利に全力を尽くそう！

2021 年 10 月 25 日

サービス・ツーリズム産業労働組合連合会
(サービス連合)
会長 後藤 常康